

祇園寺所蔵「東臯心越宛て書簡」について

塚田 博

はじめに

駒澤大学禅文化歴史博物館では、平成二十七年一〇月五日～十一月二三日の間、「東臯心越と水戸光圀～黄門様に招かれた異国の禅僧～」と題した企画展を行った。筆者が担当した本企画展では、延宝五（一六七七）年に中国から渡来した曹洞宗寿昌派の僧東臯心越（心越興儔、一六三九～九五）を取り上げ、東臯の作品を中心とした書画や関連する禅籍類などを展示した。東臯は後に徳川光圀の招請により天徳寺（現茨城県水戸市祇園寺）を開創し、また法嗣天湫法澧は達磨寺（群馬県高崎市）を開き、師東臯を勧請して開山とした。この経緯から東臯関連資料は祇園寺と達磨寺にその多くが伝来する。本企画展では両寺に格別のご高配を賜り、出展の便宜を計っていただき、数多の東臯関連資料の中から、重要なものを厳選して出展させていただいた。

本企画展の中心となったのは、東臯の書画といった美術的資料、東臯の行跡や天徳寺開創に関わる禅籍資料、東臯が招来したという七絃琴や篆刻に関する文化面の資料であった。企画段階では、祇園寺に伝来する東臯宛ての書簡類を通じて、日本禅僧と東臯の交流に関する展示も検討していたが、展示スペースの問題などから、断念せざるを得なかった。

しかし展示準備の過程で、曹洞宗文化財調査委員会架蔵の祇園寺文書写真版の調査閲覧や、祇園寺に赴き実際に資料を調査閲覧する機会を設けさせていただいた。本稿ではその際に得た知見から、これらの東臯宛て書簡を概観し紹介したい。

一、東臯心越宛て書簡について

東臯心越宛ての書簡、その原本は管見の限り全て祇園寺に所蔵されている。永井政之氏をはじめとする先論^①の中で、東臯宛て書簡は随所に引用され東臯心越研究に資されているが、その全容については看取することはできない。後述するように、祇園寺所蔵の東臯宛て書簡は二百点近い数から成り、これらは東臯の行跡や日本人禅僧との関わりについて言及する上で不可欠な資料であると筆者は考える。しかし既刊の文献に翻刻されているもの、つまり現状の研究に資されているものは半数にも満たない。本稿はその全容を一覧することを目的とするが、まず東臯関係資料を翻刻した既刊文献の翻刻状況とその概要を見てみたい。

① 浅野斧山『東臯全集』（一喝社、一九二一年）…以下『浅野全集』とする。

東臯心越の研究は、祇園寺第二二世住持浅野斧山師（一八八六～一九二二）の業績にその嚆矢を求めることができる。浅野師は明治三二（一八九九）年、駒澤大学の前身となる曹洞宗大学林を卒業し、同三五年より同学で教鞭を執る。同四一年、曹洞宗が祇園寺を曹洞宗寿昌派独立本山から、日本曹洞宗両大本山永平寺・総持寺の直轄とした際に、曹洞宗から祇園寺住持を拝命した^②。浅野師は「報恩の一片に擬せんとて、此に開祖禅師の全集を編して、普く世に頒つ^③」ために『東臯全集』上下を編纂し、明治四四年に刊行した。同書目次によると、宗脈・宗綱・詩偈・題賛（以上上巻）、銘跋・雜著・尺牘・歌俳・附録・別録（以上下巻）の

項目に分類し収録されている。本稿でいう東臯心越宛て書簡とは下巻の「尺牘」に含まれる。浅野師は「集中に輯めしは、祇園寺所蔵、禪師の原稿の三分の一に過ぎず」と述べているが、東臯関係資料を初めて翻刻収録した書物で、東臯研究の根本文献として最も重要な位置を占めていると言つてよい。古書のため閲覧は容易ではなく、出版部数も不明だが、国内大学図書館に一四件の所蔵が確認される⁽⁵⁾。また国立国会図書館近代デジタルライブラリーで閲覧することができる。

・高羅佩『明末義僧 東臯禪師集刊』(商務印書館、一九四四年)：以下『集刊』とする。

高羅佩(一九一〇～六七)は、戦前戦後にオランダ駐日外交官として活躍した ROBERT VAN GULIK の中国名である。高羅佩ならびに本書については、永井政之氏「高羅佩と東臯心越―『東臯禪師集刊』の刊行をめぐる―」⁽⁶⁾で詳細に述べられているので、これに従つて概要を紹介すると、高羅佩は昭和一七(一九四二)年、太平洋戦争の影響でオランダ外交官とともに中国重慶に移り、中華民國三三(一九四四)年重慶にて『明末義僧 東臯禪師集刊』を限定百部で刊行した。内容は、卷一東臯心越禪師伝・卷二東臯詩選。卷三東臯文選・卷四東臯琴学東伝略譜・卷五・卷六東臯善縁輯要から成る(本稿でいう書簡は「東臯善縁輯要」に含まれる)。浅野『東臯全集』と重複する内容もあるが、独自のものも多いことが注目される。中国語で記された書物であり、高羅佩による冒頭の「東臯心越禪師伝」とそこに掲載される年譜は、高い資料的価値を有する。なお昭和二六年、高羅佩は祇園寺を訪れ、限定百部の第一冊目を献呈した。この本には表紙裏に自筆の献呈の辞が記されている。惜しむらくは限定百部という稀覯性である。筆者も管見の限りは祇園寺献呈本しか知り得ていない(駒澤大学図書館に永井政之氏による祇園寺献呈本の複写がある)。

・陳智超『旅日高僧東臯心越詩文集』(中国社会科学出版社、一九九四年)：以下『詩文集』とする。

東臯の日本における文筆作品を網羅的に収録し、中国で出版された資料集。編年順に配したことが特筆できる。すなわち卷一長崎東明山興福寺(延宝五

(二六七七)年正月～同七年(二月)・卷二上黄檗山(延宝七年二月～同八年五月)・卷三長崎開闢開闢(延宝八年五月～天和元(一六八二)年六月)・卷四江戸徳川光圀別墅(天和元年六月～同二年冬)・卷五水戸徳川光圀別墅(天和二年冬～元禄四(一六九二)年五月)・卷六水戸俗宗山天徳寺(元禄四年五月～同八年九月)・卷七 時代不明者に時期区分し、それぞれ詩・文・書信に分類している(本稿で依拠した東臯宛て書簡は「書信」に含まれる)。東臯の作品は年紀が記されているものは少ないが、陳氏の意欲的な時期区分の成果により、利用の利便性が大幅に増した。また『浅野全集』の翻刻では書簡の本文のみで差出・宛名や年月日等は省略されていたが、『詩文集』ではこれらも翻刻されている。

・浦江県政協文史資料委員会編『東臯心越全集』(浙江人民出版社、二〇〇六年)：以下『浙江全集』とする。

前記『詩文集』など、中国での東臯の再評価が高まる中で、東臯の出身地である浦江県(浙江省金华市)で刊行された。簡体字表記の書籍で、上記三書の成果を踏まえ、法理・琴芸・書画篆刻・詩・文・書信・輯佚・円寂后事实・研究文選・身世考・年譜等の項目に分け(本稿で依拠した書簡は「書信」に収録)、東臯関係資料を博搜し、現段階における東臯資料集の集大成となっている。研究文選・身世考では、中国人・日本人研究者の研究論文を収録している。

二、祇園寺所蔵・東臯心越宛て書簡の概要

祇園寺に所蔵される東臯心越宛て書簡の一覧を別表に示した。このほかにも徳川光圀や綱條からの東臯宛て書簡も存在するが、本稿では省略した。全て卷子装になっていて全一〇巻が現存する。これらのうち九巻は同一の箱に一括して保管されている。箱の蓋表に「開山和尚書簡七卷」、蓋裏に「心越禪師遺物 書簡七卷」と記されている。あつらえた年代は不明だが、箱の損傷具合から近世以来、開山東臯心越の書簡箱として使用されていたものと思われる。箱書きには七巻とあるが、現在ではこの九巻に徳川綱條書簡の卷子一巻を合わせた計一〇巻が納められている。なお

「野節餘慶文章」(別表卷子No.②)と称する卷子のみは別の箱に保管されている。

『曹洞宗文化財調査目録解題集6 関東管区編』(曹洞宗事務庁、二〇〇三年) 祇園寺の項には、これらの資料目録が掲載され、解題として各卷子の概要(収録点数・差出人名等)が記されている。

別表には前項で述べた既刊翻刻文献で翻刻されているものを各書の頁数で示し、それぞれの書簡の既刊文献への掲載状況を確認する作業を行った。翻刻状況を通観すると全一九三通中、現在翻刻されているのは約三分の六五通である。これらの既翻刻分を、翻刻文献の刊行史に位置付けると次のようになる。

まず最初の翻刻資料集である『浅野全集』には四五通が掲載されている。『集刊』では二二通が掲載されているが、別表で対照するとこれらは全て『浅野全集』と重複していることがわかる。したがって『集刊』は『浅野全集』掲載の四五通から、高羅佩が取捨選択して掲載したものと思われる。次に近年刊行の『詩文集』では、『浅野全集』掲載分の四五通に一六通を加え六一通と増加し、陳氏の尽力の跡がうかがわれる。また東臯資料集の決定版ともいえる『浙江全集』では、『詩文集』掲載分はそのまま反映され、さらに五通が新たに追加されている。この五通は「輯佚」の章に掲載されていて、『詩文集』を補っている。

以下、各卷子の概要を述べる。⁽⁸⁾

(1) 人見竹洞等の書簡

①野節文章：資料名は題箋の「野節文章 四卷之内」より。野節とは儒官であった人見竹洞(一六三八〜九六、別に餘慶・鶴山とも号す)、七絃琴の名手である東臯に師事して七絃琴を修めた。本卷子には竹洞から東臯に宛てた書簡二四通を収録する(うち未翻刻は一五通)。題箋の「四卷之内」は、以下の三卷(②③④)のことを指すのか、本卷子のほかに三卷存在したのか不明である。

②野節餘慶文章：題箋「野節餘慶文章 乙軸」⁽⁹⁾。餘慶も竹洞の号である。本卷子には人見竹洞書簡一六通のほか、水戸藩士安積寛書簡一通と竹洞の弟子谷村甘裕書簡一通の一九通から成る(安積寛書簡以外は未翻刻)。ただし題箋は次に示す「野節・安積・谷村文章」の貼り違いと思われる。

③野節・安積・谷村文章：題箋「野節 安積 谷村文章」。人見竹洞の書状二四通を収録(未翻刻一七通)。本来はこちらが「野節餘慶文章」であると思われる。はがれた題箋を貼り直した時に錯誤したものか。

④「野節文章」：題箋はなく散佚したと思われる。内容は全て人見竹洞書簡なので仮に「」で資料名を付した。二〇通収録されている(未翻刻一〇通)。

以上四卷で計八七通であるが、うち八四通が人見竹洞書簡である。人見竹洞の書簡は後述する⑧に七通と(補遺)に一通の計八通が確認でき、計九二通が祇園寺に現存する。未翻刻は三分の二程度の六四通である。

(2) 禅僧等の書簡

⑤和漢高僧文章：題箋「和漢高僧文章 乙軸」。三通の中国僧の書簡と七通の日本僧の書簡から成る(未翻刻四通)。中国僧は東臯の師闍堂大文、宛名に「弟子」を関する姚江⁽¹⁰⁾、渡来僧である木庵性瑫(黄檗山万福寺二世)、日本僧は梅峰竺信が四通、如実秀本・独庵玄光・石牛天梁が各一通である。なお卷子末の二通の梅峰竺信書簡(5・9・10)は、『浅野全集』『詩文集』には一通の書簡として掲載されているが、写真版・原本を閲覧するとそれぞれに印章が押され、料紙も異なり、二通の書簡であることが明確であった。

⑥高泉和尚賀章：題箋「高泉和尚賀章」。「高泉」とは黄檗の渡来僧高泉性激(一六三三〜九五)を指すのか。ただし高泉の関係書簡は見受けられず、多くが日本人の曹洞宗僧または曹洞宗僧と思われる者の書簡二一通である(未翻刻一六通)。なお管見の限り、高泉性激から東臯宛ての書簡はない。ただし元聚書簡(6・14)に「寄黄檗高和尚為寿之物」とあり、高泉との交渉を思わせる文言が見える。本卷子の題箋が意味する所は現状では不明である。なお覚雄書簡(6・7)は差し出し名に「常光教寺帰依弟子覚雄」と記している。『浅野全集』に「濃州常光教寺覚雄(修験宗)」の注記があり、禅僧以外の僧侶の弟子がいたことの示唆となる。

⑦⑩日本高僧賀章(四卷)：各巻に「日本高僧賀章 四十四通之内」の題箋がある。東臯宛て書簡の中心を成す卷子群で、日本人僧(主に曹洞僧または曹洞

僧と思われる者)からの書簡をまとめたもの。本稿では便宜的に巻一―巻四の名称を付す。内訳は巻一(⑦)が二一通(未翻刻一四通)、巻二(⑧)が三〇通(未翻刻二一通)、巻三(⑨)が二一通(未翻刻五通)、巻四(⑩)が二一通(未翻刻八通)の計七五通(未翻刻計四八通)である。題箋には「四十四通之内」とあるが関連は不明。また卷子ごとに整理されて配列・編成されているのか無作為なのか看取することはできない。巻一は長崎皓臺寺の逆流禎順書簡が一三通と全体の半数以上を占める。なお7・12逆流禎順書簡は『詩文集』に翻刻されているが全文ではなく一部のみに留まっている。巻二は肥前善応庵・美濃龍泰寺関係者が比較的多く見受けられる。また人見竹洞書簡七通も含まれている。巻三は木庵性瑫・鉄牛道機など黄檗僧が見られるとともに、「弟子黄土美」(9・5)・「弟子周瑞」(9・10)のように「弟子」を称する者を含む。巻四は宇治興聖寺梅峰竺信・下総総寧寺融峰本祝の書簡が多く、臨濟宗の玄賢英中も含まれている。

(補遺)「日本来由」所収書簡：延宝八(一六八〇)年、東臯が自らの来日の経緯を記した「日本来由」と称する一巻中に、人見竹洞書簡が一通合装されている。『浅野全集』以来、全ての既翻刻文献に収録されていたが、どの卷子に含まれているのかは写真版や原本を閲覧するまで不明であった。

三、若干の見解

未翻刻の書状について、全文を記すことができれば十分な成果となろう。しかし純然たる漢文(中国語)で記されている書簡の解説は筆者の能力を越え、紙幅等の問題から、今回は一覧を提示した上で、いくつかの指摘にとどめることでご容赦願いたい。

(1) 年代比定の試み

書簡という性格のため多くが月日のみだが、干支などが記され年代が判明する書簡は二八通ある。決して多い数ではないが、東臯が長崎から江戸入府した天和元

(一六八一)年から天徳寺開堂の翌年元禄六(一六九三)年まで確認できる。本稿では極力年代比定を試み別表には適宜()内に年代を記した。以下、年代が判明・推測できるものについてのみだが概観する。

初見は東臯来日一年目の延宝五(一六七七)年の黄檗山万福寺二世木庵性瑫宛ての書簡(5・3)である。以後延宝八年の黄檗山拜登まで、木庵・鉄牛道機といった黄檗僧との交渉を示す書簡が残る。なおこれらの書簡の比定に関しては、永井氏「概説 東臯心越伝」に従った。

黄檗山から長崎に戻った後、東臯は幕府より詮議を受け、延宝八年七月から翌九年正月まで長崎興福寺にて閉関(軟禁状態)となる。この頃の書簡には長崎皓臺寺の逆流禎順、肥前善応庵の石鼎耕雲、肥前円心寺の空国本策・空谷など長崎近辺との僧との交渉が比較的多く見受けられる。未翻刻の書簡から二・三示すと、石鼎耕雲書簡(8・7)に「頃又開関大慰」、東臯の開関のため幕府にかけあうなど尽力した逆流禎順書簡(7・6)にも「師去十七日開関」と見え、東臯の開関(閉関を解かれること)を意味する内容の書簡が目立つ。また空谷書簡(6・18)には「大師応三位宰相公請急々廻蓮駕」と開関後の光圀の招請に関する動きが記されているものもある。

その後、光圀の招請により天和元(一六八一)年七月、東臯は長崎より江戸小石川の水戸藩別墅に入り、翌二年冬に水戸に移った。この頃には独庵玄光・巾山道白・天桂伝尊・鰲山見雪など当時の曹洞宗を代表する人物たちとの交渉が見え始める。人見竹洞とも天和二年一〇月を初見として、以後多くの書簡を重ねる。また貞享三(一六八六)年に渡来した実兄と再開するために長崎を訪れているが、姚江書簡(5・2)、黄土美書簡(9・5)や越可法義書簡(6・4・10)はこれに関する内容を持つ。

元禄三(一六九〇)年のものと思われる融峰本祝書簡が三通あるが(9・4、10・3・7)、いずれも同年重刊され東臯が序を付した『玄沙広録』の刊行に関する書簡である。

元禄四年五月、東臯は水戸天徳寺に入る。これ以降の書簡には東臯への宛名に「天

徳」や「岱宗」(天徳寺の山号)を付したものが散見でき、年代比定の参考となる。元禄五年一〇月六日、東臯は天徳寺の開堂演法を行うが、これに対する祝意を表する書簡が多くみられる。元禄五年に比定できる書簡は一七通あり、多くが天徳寺開堂に関する内容である。

(2) 差出人について

書簡数一九三通で発給した者の数は五一名に及ぶ。このうち人見竹洞・安積覚・谷村甘裕を除いた僧侶分について言えば九八通で四八名となる。僧侶のうち複数通残っている者は一九名である。その内訳を次に記した(※)内は未翻刻数)。

- 逆流禎順一三通(七) 梅峰竺信八通(五) 融峰本祝七通(五)
- 石鼎耕雲五通(五) 越可法義四通(三)
- 以下三通 木庵性瑠(〇) 独庵玄光(〇) 雲山愚白(三) 清巖正淳(三)
- 以下二通 如実秀本(二) 大寂(一) 空谷(一) 元聚(二) 湛元自澄(二)
- 卍山道白(〇) 鰲山見雪(二) 瑞雲絶江(一) 鉄牛道機(二)
- 玄賢英中(一)

また一通の者は以下の二九名である(※傍線は未翻刻)。

- 開堂大文 姚江 石牛天梁 月舟宗胡 円澄 覚雄 龍峯 覚道 妙克
- 空国本策 桂堂香林 瑞龍道聡 惟慧道定 具単 嘯月 巖碩 恩清
- 一桂懷芳 元帖 牧牛 天桂伝尊 心空隆玄 丹心龍堀 慧光 幽峰玄
- 大宣碧伝 黄士美 某 周瑞

あくまで現存書簡数を示したに過ぎないので、数の多さがそのまま交渉の深さを示すということにはならないが、一つの指針として示した。四通以上残る逆流禎順・梅峰竺信・融峰本祝・石鼎耕雲・越可法義の五名で計三七通と僧侶全体の三分の一以上を占めるが、現存数に比して翻刻されているものは半数に満たない。長崎皓臺寺の逆流禎順や肥前善応庵の石鼎耕雲などは、東臯の長崎時代から天徳寺開堂まで継続した交流が確認できる。

また、逆流や石鼎のほかにも長崎近辺の僧侶が比較的多いことも特徴として揚げられる。渡来後の四年余、長崎にいたことに起因するものであることは容易に想定

できる。少なくとも以下の二一名が九州の僧と思われる。

- 逆流禎順(長崎皓臺寺五世) 湛元自澄(同六世) 巖碩(長崎崇福寺か) 一桂懷芳(肥前高伝寺一五世) 元帖・牧牛(肥前慶閭寺) 石鼎耕雲(肥前善応庵二世) 越可法義(肥前円応寺一二世) 空谷・空国本策(肥前円応寺か) 桂堂香林(肥前天祐寺一五世)

(3) 語録等に収録された書簡

独庵玄光・梅峰竺信・卍山道白の書簡の中に、彼らの語録類に収録されているものが見られる。これらの書簡は語録収録の際の原本といえる。

独庵の『経山独庵翁護法集』所収「独庵藁」には「与心越禪師書 四首」として、独庵から東臯に宛てた書簡四通が収録されている(『曹全』語録一、七二六〜七二八頁)。うち三点が祇園寺に原本が残っていた(5・6、7・4・8)。原本と対比すると、書簡の末尾部分に記されている差出・宛名・年月日などが「独庵藁」では省かれている。原本を見ると5・6は甲子(天和四年・一六八四)、7・4は壬戌(天和二年)と年代が明記してある。独庵は天和元〜二年に二度、江戸小石川の水戸藩別墅にて東臯と相見し、東臯から『羅湖野録』『五祖録』を借りるなど、天和年間を中心に交流を持っている。

梅峰の『夢窩禪師贅録』には、「寄心越禪師」(『曹全』語録二、二〇一頁)、「同」(二〇二頁)、「東東臯禪師」(二〇七頁、5・5)、「答東臯禪師」(二〇八頁、10・2)、「呈天徳東臯禪師」(二〇八頁、10・1)の五通の東臯宛て書簡が収録され、うち三通の原本が残っている。「東東臯禪師」は『浅野全集』以下の資料集に未翻刻のものである。「夢窩禪師贅録」では差出・宛名・年月日などは省かれているが、10・1には壬申(元禄五年)と記され、同年の天徳寺開堂を賀したものである。梅峰は貞享元(一六八四)年に宇治興聖寺八世を退き臨南寺に隠棲、同四年に光圀招かれ常陸太田の耕山に三年間寓居し、再び臨南寺に帰るが、耕山時代に東臯との交流を深めたことが想定できる。なお10・1・2は『浙江全集』には「卍山道白来書」として収録されているが、写真版・原本で差出名を見た結果梅峰であった。

卍山の『鷹峰卍山和尚広録』には、8・6・14の二通が収録されている(『曹全』

語録二、六四七頁)。ともに語録編集の際に多少の文言の一部が見られる。8・6は辛酉(天和元年)の東臯の江戸入りの年のもので、8・14は年未詳だが元禄五年の天徳寺開堂に際してのものと思われる。継続した交渉が確認できよう。

おわりに

以上一〇巻一九三通の書簡を概観した。写真版の閲覧と原本調査を経て、祇園寺所蔵の東臯心越宛て書簡の全容を紹介することで、その傾向などに若干ながら触れた。今回は祇園寺現存の書簡について対象としたが、既刊文献には、このほか現存未確認の東臯宛て書簡六通(人見竹洞書簡三通・今井弘濟書簡二通・月坡道印書簡一通)が翻刻されている。今井弘濟書簡のうちの一通は『浅野全集』に翻刻されているので明治期には祇園寺にはあったと推測することができるが、あとの五通は『詩文集』が初掲載である。典拠などは明らかにされていない。また同じく典拠は不明であるが東臯発給書簡三六通も収録されている。このあたりが現状で把握できる東臯をとりまく書簡の全体像である。

現存する書簡の卷子編成を見ると、各卷子ごとのまとまりに明確な意図を見出すことはできなかったが、人見竹洞関係四巻と禅僧関係六巻に大別できる。竹洞関係は多少の例外はあるものの四巻にほぼまとめられ、内容は七弦琴に関する事、贈答に関する謝辞、画賛詩文等の依頼・謝意など多岐に渡り、現存書簡数の半数弱を占める。東臯をとりまく人間関係の中でも、竹洞との交流がかなりの部分を占めていることの現れと理解してもよいだろう。

禅僧関係についても多くの交流があることは容易に確認でき、また可能な限り年代的な傾向を試行してみた。企画展の計画段階では、独庵玄光や卍山道白の書簡から、語録に収録されているものを、本学図書館所蔵の語録版本とともに展示しつつ、東臯と日本禅僧の交流について示すことを予定していた。現実にはその展示を行うことはできなかったが、その調査の過程で多くの未翻刻資料の存在がわかった。

『浅野全集』以降『浙江全集』に至るまで、東臯関連資料が次第に明らかになっ

て行く中で、本稿では未翻刻書簡の翻刻掲載は叶わなかったが、書簡だけでも十分な数の未解明資料があることが提示できれば幸いである。

(謝意) 企画展の調査・実施ならびに本稿執筆に当たっては、祇園寺ならびに曹洞宗文化財調査委員会に多大なご理解・ご高配を賜りました。ここに改めて御礼申し上げ、謝意にかえさせていただきます。

註

- (1) 永井政之「東臯心越研究序説」(今枝愛真編『禅宗の諸問題』雄山閣、一九七九年)、同「曹洞宗寿昌派の伝来とその盛衰」(曹洞宗宗学研究所編『道元思想のあゆみ三 江戸時代』吉川弘文館、一九九三年)、同「独庵玄光と中国禅―ある日本僧の中国文化理解―」(鏡島元隆編『独庵玄光と江戸思潮』ベリカン社、一九九五年)、同「概説 東臯心越伝」(企画展 東臯心越と水戸光圀―黄門様に招かれた異国の禅僧―) 駒澤大学禅文化歴史博物館、二〇一五年、※本企画展図録など。
- (2) 浅野斧山『東臯全集』乾巻「例言」二頁、坤巻附録「日本寿昌派祇園寺沿革一斑」四三―四四頁、禅宗地方史調査会編『禅宗地方史調査会年報』第二集(祇園寺)(禅宗地方史調査会、一九八〇年)四〇頁。川口高風『熱田白鳥山法持寺史』(白鳥山法持寺、二〇一二年)四二五頁。
- (3) 坤巻附録「日本寿昌派祇園寺沿革一斑」四四頁。
- (4) 乾巻「例言」二頁。
- (5) CINI(国立情報学研究所学術情報ナビゲータ)の検索結果による。
- (6) 『駒澤大学仏教学部研究紀要』七〇、駒澤大学仏教学部、二〇一二年。
- (7) 『西山公御文章 乙軸』と題される卷子一卷に七通が収められている。これらは全て『曹洞宗古文書』上巻(大久保道舟編、筑摩書房、一九七二年)の「祇園寺文書」(三四八―三六五頁)に翻刻されている。
- (8) 本稿別表における掲載順は、各卷子に付されているラベル番号の順に従った。掲載した順に124―129・151―154となっている。

(9) 題箋「乙軸」について、祇園寺所蔵の卷子類にはほかに⑤の「和漢高僧文章 乙軸」、本稿では取り上げていないが光圀の書簡集に「西山公御文章 乙軸」と記されている。(前掲註(7) 参照) しかしいずれも甲軸に該当する卷子は見当たらなかった。推測だが「乙」は「一」の隸書体の意であろうか。

(10) 姚江：字虞山。朱舜水親翁之孫。陪朱舜水之孫毓仁及張斐來長崎(『詩文集』一七一頁・『浙江全集』三三六九頁の注記による)。

(11) 『浅野全集』下四三頁。

(12) 前掲註(1) 書。以下東臯の動向については永井氏の先論に従う。

(13) 『禪学大辞典』(大修館書店) 二八四頁。

(14) 前掲註(1)「独庵玄光と中国禪―ある日本僧の中国文化理解―」：概説 東臯心越伝」。

(つかだひろし 駒澤大学禅文化歴史博物館学芸員)

別表 祇園寺所蔵「東臯心越宛て」書簡一覧 凡例

- ・ 欄外の左に付した「未」は未翻刻資料を表す。
- ・ 資料名は差出名+書簡とし、差出当時の歴住地・世代が判明する場合は続けて()に記した。歴住地・世代は『曹洞宗全書』大系譜や『曹洞宗文化財調査目録解題集』所収の世代表等を参照した。
- ・ 既刊文献に翻刻されている書簡については掲載文献の該当頁を記載した。掲載文献の略記は次の通り。
 - 浅野全集…浅野斧山著『東臯全集』(一喝社、1911年)
 - 集刊…高羅佩『明末義僧 東臯禅師集刊』(商務印書館、1944年)
 - 詩文集…陳智超『旅日高僧東臯心越詩文集』(中国社会科学出版社、1994年)
 - 浙江全集…浦江県政協文史資料委員会編『東臯心越全集』(浙江人民出版社、2006年)
- ・ 差出名・宛名・年月日は史料文言の表記を記載した。
- ・ 年代のうち比定によるものは()カとした。

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
東臯老禪師宛座		乙丑嘉平二十日	貞享2(1685)	12月20日
東臯大和尚宛座		癸亥菊月十有九日	天和3(1683)	9月19日
東臯老禪師宛座		端陽前一日		5月4日
東臯老禪師宛床		嘉平二十七日		12月27日
東臯老禪師宛座		辛未中元前一日	元禄4(1691)	7月14日
		甲子季秋	天和4(1684)	9月
		癸亥春日	天和3(1683)	1~3月
		天和癸亥之秋	天和3(1683)	7~9月
		壬戌小春	天和2(1682)	10月
		元禄六年三月望	元禄6(1693)	3月15日
東臯老禪師宛座		中元		7月15日
		三月初五日		3月5日
東臯禪師宛床下		癸亥初夏初三日	天和3(1683)	4月3日
東臯老禪師宛座		孟夏二十又二日		4月22日
東臯老禪師宛座		嘉平十有二日		12月12日
東臯禪師宛座		孟陬令辰		1月
東臯老師法堂		初夏二十有六日		4月26日
東臯老禪師宛座		極月十有二日		12月12日
東臯老禪師丈室		壬申初夏初六日	元禄5(1692)	4月6日
		甲子嘉平	天和4(1684)	12月
		本月上元日		1月15日
東臯老禪師宛座		仲秋二十又一日		8月21日
東臯老禪師宛座		孟冬初四冀		10月4日
東臯老禪師宛座下		林鐘二十二日		6月22日

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
東臯老禪師宛床		陽月十有六日		10月16日
東臯老禪師丈室		梅月十有六日		5月16日
東臯大和尚宛座下		十月初七日		10月7日
東臯禪師丈室		姑洗二十七日		3月27日
東臯老禪師宛床		仲春初十		2月10日
東臯老禪師宛床		嘉平廿有八日		12月28日
東臯老禪師宛床		初夏初六		4月6日
東臯老禪師宛座		林鐘初五		6月5日
東臯老禪師宛床		閏月初四		(月不明) 4日
東臯禪師宛床下		□月十九日		(月不明) 19日
東臯老禪師宛床		陽月十有二日		10月12日
東臯老禪師宛座		葵賓二十又八日		5月28日
東臯禪師宛床		林鐘二十又六日		6月26日
東臯老禪師宛床		塔月十六日		(月不明) 16日
東臯禪師老公宛座		玄臘十又一日		12月11日
東臯禪師宛座		社日後二日		(春夏の彼岸前後)

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
東臯老禪師宛座		孟夏十有五冀		4月15日
東臯老禪師宛座		渡月初五日		(月不明) 5日
東臯老禪師宛床		中元		7月15日
東臯禪師宛座		中元日		7月15日
東臯老禪師宛座		孟陬十有一日		1月11日
臯亭禪師宛床		菊月念七日		9月7日
東臯老禪師宛床		玄臘二十有七冀		12月27日
東臯老禪師宛座		仲秋二十又六日	(貞享3カ)	8月26日
東臯老禪師宛床		孟春二十又二日		1月22日
東臯老禪師宛床		良月二十有九日		10月29日
東臯禪師丈室		孟陬二十有五		1月25日
東臯老禪師宛座下		孟秋念九日		7月29日
東臯老禪師宛床		八月廿又八(一カ)日		8月28(21)日
		孟秋十有三日		7月13日
東臯老禪師宛座		重陽		9月9日
東臯老禪師宛床		小春初二日		10月2日
東臯老禪師宛床		上元後二日		1月17日
東臯老禪師宛床		閏月十又三日		(月不明) 13日
東臯老禪師宛座下		小春初十		10月10日
東臯禪師宛床下		夷則二十又七日		7月27日
東臯禪師宛床		渡月十四日		(月不明) 14日
東臯老禪師宛座		陬月廿三日		1月23日
東臯禪師法壇		渡月二十三日		(月不明) 23日
東臯禪師宛床		渡月十有三日		(月不明) 13日

①野節文章

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
未	1-1					差出名(史料文言)
未	1-2					節頓首拜
未	1-3					小生野節頓首拜
未	1-4					餘慶頓首拜
未	1-5					節頓首拜
未	1-6					餘慶頓首拜
未	1-7					鶴山野節藁
未	1-8					鶴山々人野節
未	1-9					日本国備臣鶴山野節識
未	1-10					鶴山野節拜草
未	1-11					竹洞野餘慶識
未	1-12					餘慶頓首
未	1-13					節頓首拜
未	1-14					小生節和南
未	1-15					節頓首拜
未	1-16					侍生節頓首拜
未	1-17					鶴山野節頓首拜
未	1-18					節頓首拜
未	1-19					餘慶頓首拜
未	1-20					野餘慶頓首拜
未	1-21					鶴山野節
未	1-22					節頓首拜
未	1-23					侍生野節頓首拜
未	1-24					餘慶頓首拜

②野節餘慶文章

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
未	2-1					差出名(史料文言)
未	2-2					餘慶頓首拜
未	2-3					餘慶頓首拜
未	2-4					餘慶頓首拜
未	2-5					春晚生安積覺頓首再拜
未	2-6					弟子谷村甘裕百拜
未	2-7					節頓首
未	2-8					餘慶頓首拜
未	2-9					餘慶頓首拜
未	2-10					弟子谷村甘裕頓首百拜
未	2-11					節頓首
未	2-12					餘慶頓首
未	2-13					餘慶頓首
未	2-14					小生節頓首
未	2-15					餘慶頓首拜
未	2-16					侍生節頓首拜
未	2-17					侍生節頓首拜
未	2-18					節頓首拜
未	2-19					節頓首拜
未	2-19					節頓首

③野節安積谷村文章

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
未	3-1					差出名(史料文言)
未	3-2					節頓首拜
未	3-3					侍生節頓首拜
未	3-4					餘慶頓首
未	3-5					節頓首拜
未	3-6					侍生野節頓首拜
未	3-7					節頓首百拜
未	3-8					野節頓首拜
未	3-9					鶴山節頓首
未	3-10					節頓首拜
未	3-11					餘慶頓首拜
未	3-12					餘慶頓首拜
未	3-13					節頓首拜
未	3-14					節頓首
未	3-15					侍生節頓首拜
未	3-16					餘慶頓首拜
未	3-17					節頓首
未	3-18					節頓首拜
未	3-19					144
未	3-20					餘慶頓首拜
未	3-21					侍生節頓首拜
未	3-22					節頓首拜
未	3-23					餘慶頓首拜
未	3-24					侍生節頓首拜
未	3-24					節頓首拜

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
東臯禪師宛座		林鐘十又七日		6月17日
東臯老大和尚宛座下		十月十六日		10月16日
東臯老禪師宛座		孟夏二十有一日		4月21日
東臯老師宛床				
東臯老禪師宛床		渡月初六		(月不明)6日
東臯老禪師宛床		仲春二十又三日		2月23日
東臯禪師宛床		林鐘二十又四日		6月24日
東臯老禪師宛座		陽月望		10月15日
東臯老禪師宛床		仲秋初十		8月10日
		季夏十有一日		6月11日
東臯禪師法壇下		玄臘初三日		12月3日
臯亭老禪師宛床		陽月念日		10月20日
東臯老禪師宛床		上元前二日		1月13日
東臯老禪師宛座		陽復之月十有七日		11月17日
東臯老禪師宛床		季秋初六		9月6日
東臯老禪師宛床		渡月十有六日		(月不明)16日
東臯老禪師宛床		蒲節前二日		5月3日
東臯禪師宛床		林鐘廿又一日		6月21日
東臯老禪師宛床		上己前一日		3月2日
東臯老禪師宛床		仲秋二十有五日		8月25日

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
心月上座				
心越老禪師法座			(貞享3カ)	
心越師庭孫		五月廿九	(延宝5カ)	5月29日
心越大禪師法座下		未申夏十有八奠	元禄4(1691)	5月18日
東臯和尚宛座下		孟夏初三日	(元禄3以後)	4月3日
心越和尚侍者机右		甲子仲春二日	天和4(1684)	2月2日
天德方丈老大和尚宛座下			(元禄5カ)	
越公和尚御座前				
東臯越公和尚	宝山=宝山興聖寺			
越公和尚	宝山=宝山興聖寺			

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
岱宗越老大師蓮座			(元禄4以降)	
心越禪師法座下			(元禄4以降)	
心越禪師座下		乙丑二月十一日	貞享2(1685)	2月11日
心越老大師宝蓮座下			(貞享3カ)	
東臯越老如来蓮座				
越大和尚獅子座下			(延宝8カ)	
東臯越老大和尚		庚午暑月吉旦	元禄3(1690)	5月1日
越公老大禪師蓮座下	普門=普門山円心寺か	孟春廿有五日	(延宝9カ)	1月25日
心下越老大師座前		乙丑孟春廿八奠	貞享2(1685)	1月28日
心下越老大師法蓮座下			(貞享3カ)	
心越老和尚大禪師法蓮座下	普門山=円心寺	甲子上陽十有一	天和4(1684)	1月11日
新天德堂上心越老和尚法座下		仲秋望後一	(元禄5カ)	8月16日
東臯心老大師		黄鐘二奠		11月2日
天德越和尚宛座下			(元禄4以降)	
心越和尚法座下	慈光寺未詳	己巳仲夏日	元禄2(1689)	5月
心越大禪師蓮座下	印章に「空国之印」[本策]	庚申林鐘初三日	延宝8(1680)	6月3日
心越老大和尚宛座下		四月初六日		4月6日
心下越大禪師宝蓮座下	普門=普門山円心寺か	夏五廿四日	(延宝9カ)	5月24日
心越和尚金宛			(元禄5カ)	
天德心越和尚杖側			(元禄4以降)	
東臯心越老和尚侍右		六月上澆日		6月上旬

宛名(史料文言)	備考	年月日(史料文言)	年代	月日
心越禪師座下		三月□□(四日カ)	(延宝9カ)	3月(4日か)
新命天德大和尚座下		初冬日上答	(元禄5カ)	10月
越翁禪師法座	雲山=海雲山皓臺寺		(貞享元以前)	
心越禪師蓮座下		壬戌十月十八日	天和2(1682)	10月18日
天德堂頭大和尚侍局	雲山=海雲山皓臺寺	孟冬二十九日	(元禄4以降)	10月29日
心越禪師法座			(延宝9カ)	
心越禪師				
心越和尚法座			(天和元~2カ)	
天德堂頭越翁老和尚	慈雲=慈雲山善心寺	南呂十七鳥	(元禄5カ)	8月17日
心越禪師座右			(延宝9カ)	
		孟夏下旬		4月下旬
越翁和尚侍者				
心越僊翁禪師蓮座		南呂朔旦	(延宝8カ)	8月1日

④〔野節文章〕

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
4-1	人見竹洞書簡	下44-45	140	254	146	差出名(史料文言) 節頓首拜
4-2	人見竹洞書簡					侍弟節頓首拜
4-3	人見竹洞書簡	下46	138	254-255	147	餘慶頓首拜
4-4	人見竹洞書簡	下46-47		166-167	142	節頓首白
4-5	人見竹洞書簡	下47		255	147	餘慶頓首拜
4-6	人見竹洞書簡	下47-48	141-142	256	147	餘慶頓首拜
4-7	人見竹洞書簡					節頓首拜
4-8	人見竹洞書簡					餘慶頓首拜
4-9	人見竹洞書簡					餘慶頓首拜
4-10	人見竹洞書簡	下48-49	140-141	256	147-148	侍生野節頓首拜
4-11	人見竹洞書簡	下49	141	132	367-368	侍生野節頓首和南
4-12	人見竹洞書簡	下49-50	138	252	145	節頓首
4-13	人見竹洞書簡					節頓首拜
4-14	人見竹洞書簡					餘慶頓首拜
4-15	人見竹洞書簡					餘慶頓首拜
4-16	人見竹洞書簡					節頓首拜
4-17	人見竹洞書簡					餘慶頓首
4-18	人見竹洞書簡					節頓首拜
4-19	人見竹洞書簡	下50		257	148	侍生節頓首拜
4-20	人見竹洞書簡	下50-51		257	148	節頓首拜

⑤和漢高僧文章

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
5-1	闕堂大文書簡			206	372	翠微文老人字与
5-2	姚江書簡			170-171	369	弟子姚江頓首
5-3	木庵性瑫書簡(万福寺2世)	下36		33	359	黃檗木庵和南
5-4	如奘秀本書簡(青松寺15世)					青松野寺如奘和南
5-5	梅峰竺信書簡					如夢竺信梅峰口稿
5-6	独庵玄光書簡(打睡庵)				387-388	打睡庵主玄光和南
5-7	石牛天梁書簡(大中寺23世)					大中寺石牛和南拜具
5-8	梅峰竺信書簡					德阜梅峰玄頓首呈草
5-9	梅峰竺信書簡(興聖寺8世)	下34-35		97	361	宝林梅峰信呈草
5-10	梅峰竺信書簡(興聖寺8世)	下35		097-098	361	宝林梅峰信副草

⑥高泉和尚賀章

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
6-1	大寂書簡					弟子大寂百拜具
6-2	月舟宗胡書簡(興禪寺開山)					興禪月舟和南
6-3	雲山愚白書簡					愚白拜
6-4	越可法義書簡					淨泰法義九拜頓首
6-5	大寂書簡	下43		250	374	不慧右弟大寂百拜具
6-6	円澄書簡	下42-43		72	361	円澄百拜
6-7	覚雄書簡(常光教寺)	下43-44		175	371	常光教寺弟依弟子覚雄百拜具
6-8	空谷書簡			98	362	普門空谷百拜
6-9	越可法義書簡					淨泰山主法義百拜
6-10	越可法義書簡			172	370	清涼山主義越可和南百拜
6-11	越可法義書簡(円応寺12世)					普門山納法義百拜具
6-12	龍峯書簡					龍峯和南
6-13	覚道書簡					覚道謹上啓
6-14	元聚書簡					元聚和南百拜
6-15	妙堯書簡(慈光寺)					慈光寺妙堯和南再拜
6-16	円応寺空国本策書簡					円応寺本策百拜
6-17	桂堂香林書簡(天祐寺15世)					弟子香林和南百拜
6-18	空谷書簡					普門空谷拜具
6-19	元聚書簡					元聚稽首百拜
6-20	瑞龍道聰書簡					瑞龍道聰和南拜
6-21	雲山愚白書簡					愚白合十

⑦日本高僧賀章 卷一

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
7-1	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)	下27-28	133	99	362	皓臺逆流拜
7-2	逆流禎順書簡					釣月亭逆流拜具
7-3	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)					雲山逆流和南
7-4	独庵玄光書簡(打睡庵)	下31-32	136-137	130	366	玄光和南
7-5	湛元自澄書簡(皓臺寺6世)					雲山自澄拜
7-6	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)					皓臺逆流頓首
7-7	逆流禎順書簡					逆流和南
7-8	独庵玄光書簡(打睡庵)	下30	135-136	130-131	367	睡庵玄光和南
7-9	惟慧道定書簡(善心寺2世)					慈雲惟慧和南拜下
7-10	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)			98	361-362	皓臺逆流拜
7-11	具單書簡					具單
7-12	逆流禎順書簡			98	362	逆流頓首拜
7-13	逆流禎順書簡	下28	133-134	099-100	362-363	逆流順和南

心越和尚侍右				
天徳心越堂頭和尚侍者		孟春十六日	(元禄6カ)	1月16日
天徳堂頭心越老禪師侍司側		季穉下旬	(元禄5カ)	9月下旬
支山禪師法座	雲山 = 海雲山皓臺寺		(天和元カ)	
東臯心越和尚		孟春廿一日	(延宝9カ)	1月21日
越老東臯大禪師宛座下		夷則二十八鳥		7月28日
東臯心越禪師座下	雲山 = 海雲山皓臺寺	林鐘晦日	(延宝9カ)	6月30日
東臯心越和尚				
東臯心越禪師法座	雲山 = 海雲山皓臺寺			

宛名 (史料文言)	備考	年月日 (史料文言)	年代	月日
支山心越大禪師須弥座下	慧日山 = 慧日山高伝寺		(元禄5カ)	
心翁大和尚宛座下	若山 = 般若山慶閭寺			
支山心越大和尚宛座下	般若 = 般若山慶閭寺		(天和元カ)	
心越僞老禪師法座		重陽下潮		9月下旬
心翁禪師宛座下		癸亥仲春十有六日	天和3 (1683)	2月16日
心越禪師宛座下		辛酉初冬九日	天和元 (1681)	10月9日
心越大和尚禪師		仲春十八冀	(延宝9カ)	2月18日
東臯老禪師宛座		小春初三日		10月3日
東臯越翁和尚法座下		乙丑花月初二日	貞享2 (1685)	3月2日
東臯越和尚法座	祥雲 = 祥雲山龍泰寺	酉之晩春初五	元禄6 (1693)	3月5日
心越和尚座偶		孟春日	(元禄6以前)	1月
東臯越公禪師法座下	護国 = 護国山宝門寺	壬申仲冬十六冀	元禄5 (1692)	11月16日
天徳心越大和尚宛座		壬申仲穉下浣	元禄5 (1692)	8月下旬
越翁禪師侍司下			(元禄5カ)	
心越和尚禪師机右				
心越大和尚禪師机右		晩秋下浣日		9月下旬
心越老禪師宛右		四月二十有三日		4月23日
支山心越和尚				
心越和尚坐下				
岱宗越老和尚侍者		季春上旬日	(元禄5カ)	3月上旬
東臯老禪師宛床		閏月十有四日		(月不明) 14日
東臯老禪師宛座		伏月初六冀		6月6日
東臯老禪師宛床		重九前二日		9月7日
東臯心越和尚法座		壬申初夏下澣	元禄5 (1692)	4月下旬
東臯老禪師宛床		中元		7月15日
心越和尚座前		仲春日		2月
東臯越禪師				
東臯老禪師宛座		上元		1月15日
		仲春望		2月15日
東臯越老和尚描偶			(元禄6以前)	

宛名 (史料文言)	備考	年月日 (史料文言)	年代	月日
天徳越老禪師法座	印章に「□□如実」	孟春念五	(元禄4以降)	1月25日
東臯和尚座下		本月(7月か)廿二日	(元禄4以降)	7月22日
天徳堂頭老和尚金毛下		壬申秋九月下浣	元禄5 (1692)	9月下旬
心越大禪師侍者			(元禄3カ)	
心越大和尚座前			(貞享3カ)	
東明心越大師			(延宝9以前)	
興福心越賢姪孫				
心越賢姪孫		十月初五		10月5日
心公和尚座下				
心越禪德座前		臘月初六日	(延宝7カ)	12月6日

宛名 (史料文言)	備考	年月日 (史料文言)	年代	月日
東臯和尚金払下		壬申秋十有六日	元禄5 (1692)	8月16日
東臯和尚金毛下				
東臯越大和尚禪師宛座側		仲夏廿七冀	(元禄3カ)	5月27日
岱宗心越大禪師法座		臘月下旬	(元禄5カ)	12月下旬
岱宗心越翁大和尚禪榻下		林鐘初九日	(元禄4以降)	6月9日
天徳心越禪師侍司下		夷則廿八日	(元禄5カ)	7月28日
東臯心越老禪師獅子座側		孟秋	(元禄3カ)	7月
天徳堂頭心翁禪師侍右	龍山 = 瑞龍山南禅寺	仲春下浣	(元禄4以降)	2月下旬
東臯越公和尚金毛下	宝林 = 宝林興聖寺		(貞享元以前)	
心越大禪仏宛座下		孟春二十四鳥	(元禄5カ)	1月24日
天徳越老禪師法座		孟秋下浣	(元禄6以降)	7月下旬
東臯心越禪師侍机	靈芝山 = 南禅寺塔頭光雲寺	孟春上浣	(延宝9カ)	1月上旬

宛名 (史料文言)	備考	年月日 (史料文言)	年代	月日
		渡月初四		(月不明) 4日

未	7-14	嘯月書簡					嘯月拜
未	7-15	湛元自澄書簡(皓臺寺6世)					皓臺寺湛元拜
未	7-16	巖願書簡(崇福寺)					崇福寺巖願和南
未	7-17	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)					雲山逆流投□
未	7-18	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)	下29	134	100	363	皓臺逆流拜
未	7-19	恩清書簡					恩清
未	7-20	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)					雲山逆流拜具
未	7-21	逆流禎順書簡					逆流拜
未	7-22	逆流禎順書簡(皓臺寺5世)	下29-30		100	363	雲山流頓首

⑧日本高僧賀章 卷二

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)	
未	8-1	一桂樓芳書簡(高伝寺15世)					慧日山主樓芳謹白
未	8-2	元祐書簡(慶園寺)	下37-38	137	126-127	364-365	若山元祐頓首
未	8-3	牧牛書簡(慶園寺)	下38	132-133	095-096	368	般若弟牧牛頓首拜
未	8-4	石鼎耕雲書簡(善応庵2世)					善応耕雲野衲拜草
未	8-5	天桂伝尊書簡(静居寺9世)	下35-36		164-165	368	駿之河東静居天桂拜首
未	8-6	卍山道白書簡(大乘寺27世)	下39-40		127-128	365	大乘卍山拜稿
未	8-7	石鼎耕雲書簡(善応庵2世)					善応耕雲拜具
未	8-8	人見竹洞書簡					野慶頓首拜
未	8-9	鰲山見雪書簡(龍泰寺20世)					大富峰鰲山和南拜
未	8-10	清巖正淳書簡(龍泰寺21世)					祥雲清岩拜
未	8-11	清巖正淳書簡(龍泰寺21世)					龍泰清岩和南拜
未	8-12	心空隆玄書簡(宝門寺9世)	下41	205		371	護国隆玄草□
未	8-13	石鼎耕雲書簡(善応庵2世)					善応耕雲拜具
未	8-14	卍山道白書簡				389	宝僧岩卍山百拜
未	8-15	石鼎耕雲書簡(善応庵2世)					善応野衲耕雲拜具
未	8-16	石鼎耕雲書簡(善応庵2世)					肥州善応菴主耕雲
未	8-17	丹心龍輝書簡(総寧寺23世)					丹心和南
未	8-18	瑞雲絶江書簡					瑞雲絶江和南拜
未	8-19	瑞雲絶江書簡	下40-41	127		365	瑞雲絶江和南稽顙
未	8-20	慧光書簡					慧光稽顙首拜
未	8-21	人見竹洞書簡					侍生節頓首拜
未	8-22	人見竹洞書簡					節頓首
未	8-23	人見竹洞書簡		167		142	節再頓首
未	8-24	雲山愚白書簡(成合寺開山)					成合愚白和南
未	8-25	人見竹洞書簡					節頓首拜
未	8-26	鰲山見雪書簡(龍泰寺20世)					鰲山合十
未	8-27	幽峰玄書簡	下41-42	249		374	幽峰和南
未	8-28	人見竹洞書簡(大雄寺12世)					節頓首
未	8-29	人見竹洞書簡					節頓首拜
未	8-30	清巖正淳書簡(龍泰寺21世)					龍泰清岩和南拜

⑨日本高僧賀章 卷三

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)	
未	9-1	如実秀本書簡(青松寺15世)					前□□□実頓首
未	9-2	梅峰竺信書簡					竺信梅峰拜具
未	9-3	大宣碧伝書簡(吉祥寺15世)					武江吉祥大宣和南
未	9-4	融峰本祝書簡(総寧寺26世)				389	總寧祝融峰和南拜
未	9-5	黃土美書簡		170		369	弟子黃土美頓首
未	9-6	鉄牛道機書簡(瑞聖寺2世)					紫雲道機和南
未	9-7	某書簡		132		368	
未	9-8	木庵性瑠書簡(万福寺2世)	下36-37	130	34-35	359	黃檗老僧瑠和南復
未	9-9	木庵性瑠書簡(万福寺2世)	下37	129-130	34	359-360	黃檗木庵老僧
未	9-10	周瑞書簡					弟子周瑞頓首
未	9-11	鉄牛道機書簡(瑞聖寺2世)	下33-34	129	34-35	360	瑞聖道機和南復

⑩日本高僧賀章 卷四

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)	
未	10-1	梅峰竺信書簡				389	竺信拜草
未	10-2	梅峰竺信書簡				389	□伽竺信和南拜具
未	10-3	融峰本祝書簡(総寧寺26世)	下42-43	249-250		374	安国山総寧寺融峰本祝和南
未	10-4	融峰本祝書簡(総寧寺26世)					安国融峰祝和南
未	10-5	融峰本祝書簡(総寧寺26世)					總寧融峰和南
未	10-6	融峰本祝書簡(総寧寺26世)					總寧寺融峰拜
未	10-7	融峰本祝書簡(総寧寺26世)					總寧寺本祝和南
未	10-8	玄賢英中書簡(南禅寺100世)					龍山退納玄賢頓首
未	10-9	梅峰竺信書簡(興聖寺8世)					寶林梅峰信拜草
未	10-10	如実秀本書簡(青松寺15世)					青松如実拜具
未	10-11	融峰本祝書簡(永平寺36世)					永平融祝祥復
未	10-12	玄賢英中書簡(光雲寺)	下32-33	134-135	101	363-364	靈芝山僧玄賢拜首

(補遺)「日本由来」所収

No.	資料名	浅野全集	集刊	詩文集	浙江全集	差出名(史料文言)
	人見竹洞書簡	下45	140	254	146-147	侍生節頓首拜